

令和7年3月25日

「新小山市立博物館整備基本計画案」に対するパブリック・コメントの結果について

「新小山市立博物館整備基本計画案」に対するパブリック・コメントの実施結果について、以下のとおり公表いたします。

今回の意見募集にあたりご協力いただきました方々へ御礼申し上げますとともに、今後とも新小山市立博物館・間々田のじゃがまいた伝承館複合施設整備事業にご協力いただきますようお願い申し上げます。

記

1. 意見募集の概要

- 1) 閲覧期間 令和7年2月7日(金) ～ 令和7年3月10日(月)
- 2) 閲覧場所 市ホームページ、文化振興課、博物館、各地区出張所
- 3) 提出方法 郵送、FAX、電子メールまたは直接書面により文化振興課もしくは博物館に提出

2. 意見募集の結果

提出意見数： 8 件

3. 提出された意見等の概要とこれに対する市の考え方

次ページより

4. お問い合わせ先

小山市教育委員会文化振興課 歴史のまち推進係(～R7.3.31)

※小山市教育委員会生涯学習部文化財課 歴史発信係(R8.4.1～)

Tel:0285-22-9659

Mail:d-bunka@city.oyama.tochigi.jp

No	ページ	内容	ご意見等	市の考え方
1	P44	体験交流 エリアに ついて	アンケートにおいて、20～30代は「小山の自然環境を観察し、守る活動」を望む声が多いと書かれているが、体験交流ではそのような記載が見当たらず、全体を見ても自然環境に関する内容の少なさを感じる。新博物館において自然を体験できるスペースを整備するのは非常に重要ではないか。	ご指摘いただきました通り、基本計画を検討するにあたって令和6年度に実施いたしました市民アンケートにおいて、新博物館でやってみたい活動について、20代から30代の方からは、「小山の自然環境を観察し、守る活動」と回答される比率が、比較的高い結果が出ております。 このような結果も受けまして、第2章活動計画の調査研究活動で行う取組に、市民協働による既存標本の同定作業、新規標本の作製作業の実施を挙げまして、将来的に市民とともに小山の自然に関する研究を行っていくプログラムの実施を目指すことを位置付けております。 また、新博物館の常設展示では、新たに自然の分野を取り上げます。ご指摘いただきました自然を体験する視点については、今後、具体的な展示内容の検討していく中でも大切にして参りたいと存じます。
2	30p	展示構成 及び常設 展示室に ついて	ジオラマは管理が非常に難しく、また一回制作すると修正がきかない部分が多い。ジオラマについてはあって良いものだが、維持・管理・更新の側面を鑑み検討を願いたい。	ご指摘の通り、ジオラマはその後の維持管理・更新に難があるものもございしますが、最近の事例では、ホワイト地形模型へのプロジェクションマッピングの投影によって、地域の風土や歴史、観光について紹介する手法などもございます。展示更新も可能な、維持管理のしやすい展示手法について、検討して参ります。

No	ページ	内容	ご意見等	市の考え方
3	30p	展示構成 及び常設 展示室に ついて	常設展示室における文化財の展示方法について記載されている案について、展示品等を多数かつ複数のテーマについて同線上に沿って単純に配置する方式では、各テーマに沿う内容の本来有する価値や背景が十分に伝わらない恐れがある。自然と文化財はそれぞれ固有の物語や意味を持っているため、来館者がひとつでも深く学び取ることを願い、展示品等を厳選し来館者に伝えるべきではないかと考える。	ご指摘を受けました、第3章展示計画の各分野の展示構成案につきましては、今後具体的な展示構成を検討していく基礎資料となるもので、これらがそのまま常設展示の内容とはならず、より分かりやすい展示を検討していく中で、展示すべき資料を決定していくことになります。 展示テーマである「川と大地とわたし」を軸に、来館者の方がわかりやすく学ぶことができる展示を、博物館の学芸員をはじめ、各分野の有識者の方々から助言をいただきながら、展示資料や各資料をつなぐ展示ストーリーを検討してまいります。
4	50p	ゾーニング について	屋外広場をさらに広めたほうがよくないかと考える。現在の市内の博物館等の駐車状況を確認するべきだが、私見では市内の博物館等では駐車場が余っていると感じる。 それよりは、近隣住民やファミリー層にとって有益に活用できる屋外広場の方を充実する方がよいのではないかと考える。	駐車場につきましては、第4章施設計画、施設与件の整理において記載する通り、現博物館の駐車可能台数を基準に、また博物館と隣接する予定の、間々田のじゃがまいた伝承館との駐車場併用を念頭に、適切な駐車台数を検討して参ります。 また、基本計画中の外構の与件整理において、周辺の賑わいを創出できるイベントが開催できるような、外構設備の検討を記載しております。ご指摘いただいた、近隣住民やファミリー層が有益に活用できる施設となるよう、施設外構の検討を進めて参ります。

No	ページ	内容	ご意見等	市の考え方
5	—	—	整備予定地は、車でしか行けない立地である。なぜ、今より駅から離れてしまうのか。人口減少が見込まれ、コンパクトシティ化が必須とされる現代に、わざわざ車でしか行けない場所に作るのか。 様々な交通手段で行けるような場所に作ることを検討してもらいたい。	整備予定地は、新博物館と、間々田のじゃがまいた伝承館の2つの施設を整備する場所として、旧日光街道につながる歴史を持つ、国道4号に近接する、交通アクセスに恵まれた土地であるとともに、間々田のじゃがまいたの行事の中で参加者、観覧者が最も盛況を迎える水呑みが行われる、間々田八幡宮の近傍地にあることから、両者を整備するのに適した土地であると考えております。 しかし、ご指摘をいただいております通り、現博物館より駅から離れてしまう立地となっているため、様々な交通手段での利用を担保できるよう、駅から施設までのバス路線の充実などを検討して、広くご利用いただけるような環境を整備して参ります。
6	22	他機関連携活動	自然史分野での連携も計画に含めるべきである 現在の内容は、小山市文化財保存活用地域計画のもとでの人文科学分野(史跡・古文書調査・民俗調査等)に限定されている。自然史分野での他機関との連携についても明記し、その体制づくりを計画化すべきである。	ご指摘の通り、新博物館は新たに自然分野を加え、総合博物館を目指すため、地域の学術調査を担う拠点として、自然分野に関しても、他機関と連携した研究調査を行っていくべきと存じます。 したがって、他機関連携活動中の近隣大学等専門機関との学術的交流の強化の記載に、自然、考古、歴史、民俗の全ての分野に関する学術連携を目指す旨を加筆いたします。

No	ページ	内容	ご意見等	市の考え方
7	—	—	生物の生息状況についての市民からの情報提供の窓口設置や情報の蓄積・活用の体制づくりを新博物館も参加すべきである 市民参加は標本の同定や整理のみに限定すべきではない。市民からの自然関係の情報の提供を受け付ける窓口や蓄積の業務をどの部署が担うのか、本計画中に示し体制を構築することを望む。	ご指摘をいただきました市内の生物多様性に関する情報の収集・蓄積に関しましては、小山市が策定した『生物多様性おやま戦略』(2024年)の中で、「施策1-9 市域の動植物に関する情報の収集・活用」の具体的な取り組みの一つとして記載しております。 新たに自然分野を取り上げる新博物館といたしましても、上記計画に記載される情報の収集・蓄積に関して、担当課と連携協力できる体制の構築を検討して参ります。
8	—	—	自然史分野の学芸員の長らくの不在による業務の蓄積や、新博物館での新規業務によって、自然史分野の学芸員の多忙化が予想される。事務職員や設備面も含め十分な人員の確保と良好な待遇を望む。	ご指摘のとおり、小山市では自然系学芸員は長らく不在となっており、自然系分野を加える新博物館を整備するにあたって、自然系の学芸員を確保する重要性は高いと考えております。 したがって、今後、小山市では自然系学芸員を良好な労働環境のもと、早急に確保できるように検討して参りたいと存じます。